

比内地鶏の情勢

平成31年4月
畜産振興課

1 飼養動向

(1) 飼養戸数

・平成20年の149戸をピークに年々減少していたが、30年は前年比2戸増の101戸であった。うち約8割は、主産地の県北地域が占めている。

(2) 年間生産羽数

・全国の地鶏等の台頭による需要の減少を背景に主産地で生産調整が行われ、28年には510千羽に減少したが、その後2年連続で増加し、30年は542千羽となった。うち主産地である県北地域における生産羽数は480千羽で、全体の約9割を占めている。

(3) 1戸当たりの年間生産羽数

・近年、5千羽前後で推移しており、30年は前年比103%の5,366羽であった。

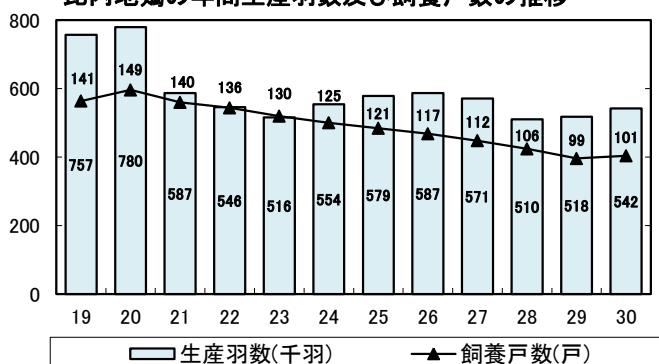
○ 飼養動向の推移

(単位：戸、千羽、%)

年次	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
飼養戸数	141	149	140	136	130	125	121	117	112	106	99	101
前年比	104%	106%	94%	97%	96%	96%	97%	97%	96%	95%	93%	102%
年間生産羽数	757	780	587	546	516	554	579	587	571	510	518	542
前年比	104%	103%	75%	93%	95%	107%	105%	101%	97%	89%	102%	105%
一戸当たり年間生産羽数	5,369	5,235	4,193	4,015	3,969	4,432	4,785	5,017	5,098	4,811	5,232	5,366
前年比	100%	98%	80%	96%	99%	112%	108%	105%	102%	94%	109%	103%

(畜産振興課調べ)

比内地鶏の年間生産羽数及び飼養戸数の推移



○ 市町村別順位 (平成30年)

<生産農家数の多い市町村>

- ①大館市 (37戸)
- ②北秋田市 (19戸)
- ③能代市 (11戸)
- ④由利本荘市 (7戸)
- ⑤上小阿仁村 (5戸)
- ⑤三種町 (5戸)

<生産羽数の多い市町村>

- ①大館市 (261千羽)
- ②北秋田市 (118千羽)
- ③三種町 (34千羽)
- ④由利本荘市 (31千羽)
- ⑤大仙市 (24千羽)
- ⑤上小阿仁村 (24千羽)

2 流通動向

・30年の流通出荷羽数は535千羽で、出荷先別の割合(羽数)は、県内向けが全体の40%(212千羽)、県外向けが60%(323千羽)であった。

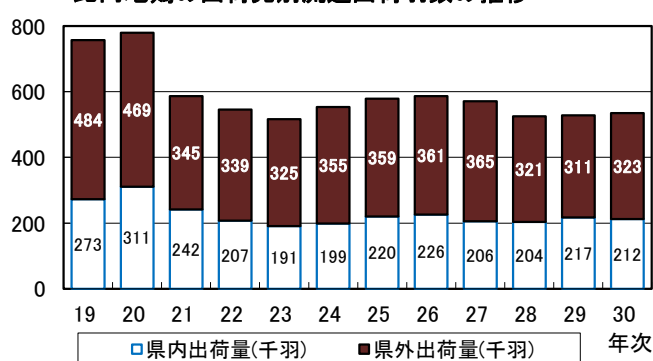
○ 流通動向の推移

(単位：千羽、%)

年次	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
流通出荷羽数	757	780	587	546	516	554	579	587	571	525	528	535
前年比	104%	103%	75%	93%	95%	107%	105%	101%	97%	92%	101%	101%
県内向け出荷羽数	273	311	242	207	191	199	220	226	206	204	217	212
構成割合	36%	40%	41%	38%	37%	36%	38%	39%	36%	39%	41%	40%
県外向け出荷羽数	484	469	345	339	325	355	359	361	365	321	311	323
構成割合	64%	60%	59%	62%	63%	64%	62%	61%	64%	61%	59%	60%
食鳥処理業者期末在庫									113	21	5	12

(畜産振興課調べ ※食鳥処理業者在庫はH27から調査)

比内地鶏の出荷先別流通出荷羽数の推移



○ 出荷先別割合 (平成30年)

